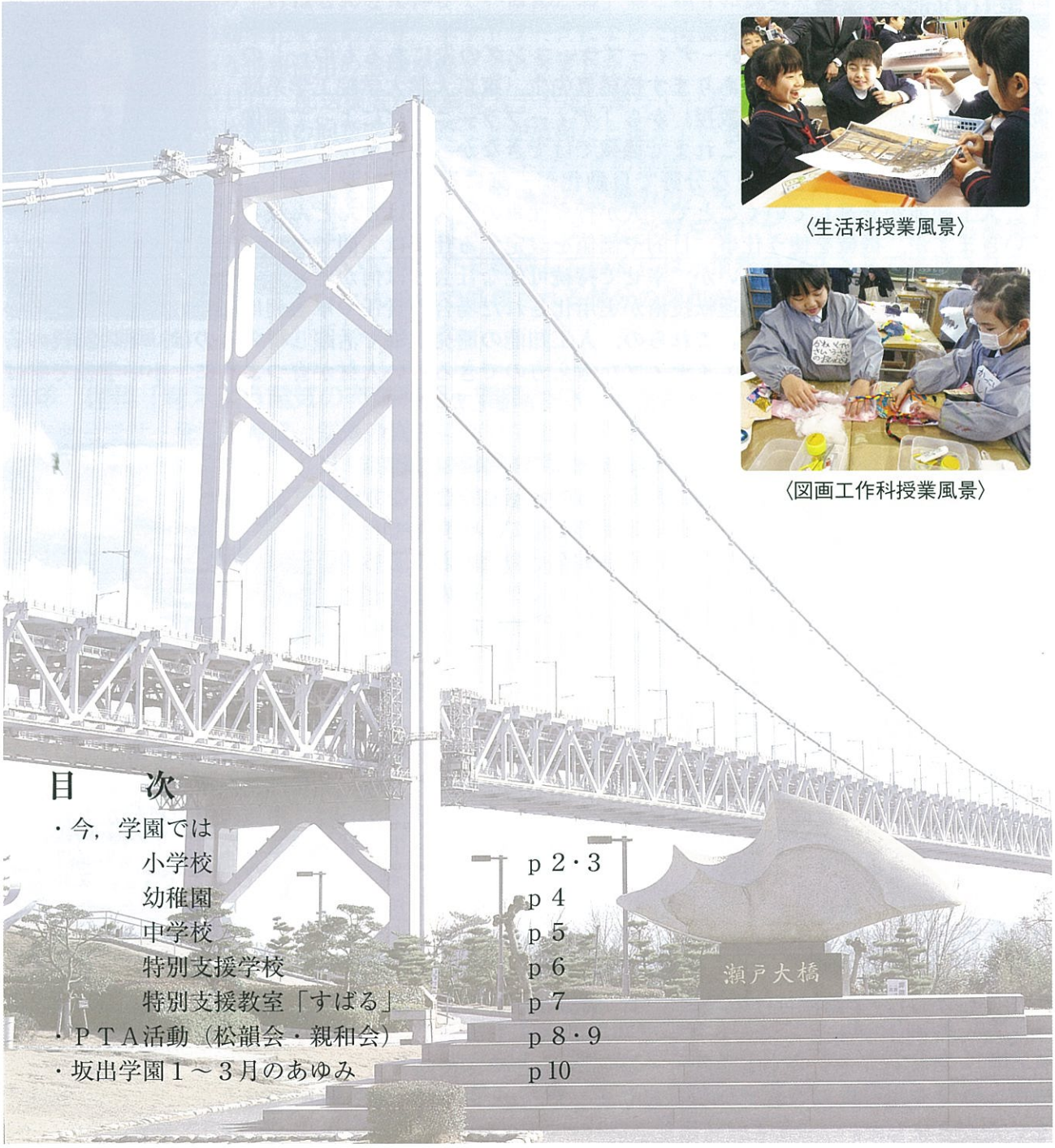
香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第59号　2018.3

〈生活科授業風景〉

〈図画工作科授業風景〉



目　次

・今，学園では
　小学校　p 2・3
　幼稚園　p 4
　中学校　p 5
　特別支援学校　p 6
　特別支援教室「すばる」　p 7
・ＰＴＡ活動（松韻会・親和会）　p 8・9
・坂出学園１～３月のあゆみ　p10

1月25日(木)，26日(金)　教育研究発表会に県内外から1400名参加

学びに熱中する子どもの育成（２年次）

ー学習意欲を育て，他者と共働しながら考え続ける力を育む授業づくりー

１月25日と26日の２日間，第100回附属坂出小学校教育研究発表会が，晴天のもと盛大に行われました。県内外の小中学校や教育関係機関より，２日間でのべ1400名以上の参会者をお迎えし，本校の研究実践をご覧いただくとともに，全国にその意義と歩みを発信することができました。

今回は，上記の研究主題で２年次になります。本年度は特に，「新たな問題を共有する場を位置づけた単元や題材の構成」「個に応じた学習意欲を育てる有効な働きかけ」の研究を進めてきました。18本の研究授業ではそれを具現化した形で披露し，参会者から貴重なご意見をいただきました。

また，会の準備や運営では，保護者の皆様や学生の多大なる協力を得ました。寒い中，受付や交通案内をしていただいた松韻会役員，常任委員の方々には，この場をもちまして厚くお礼申し上げます。

第100回記念講演

「人工知能は人間を超えるか～ディープラーニングの先にあるもの～」のテーマで，本校の卒業生でもあります松尾豊先生（東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略専攻特任准教授）から「ディープラーニングによって画像認識の性能が一気に上がり，これまで機械ではできなかった作業ができるようになってきます。今後様々な分野で自動化が一気に進む事が考えられます。人工知能が発達していくことで，人が行う仕事のタスクはどんどん減っていきますが，機械を使う仕事，目的や価値を設定する仕事は人間でなければできません。そのため，どういう社会をつくりたいか，幸せで持続可能な社会とは何かを考える力が今後ますます重要になってきます。実際，自動運転技術が実用化された場合の責任や軍事利用について等の倫理面の議論は盛んに行われています。これらの，人工知能の開発現場で活躍しているのは，主に20代の若い世代となっています。クリエイティブな考え方のできる若い人材が育つように，小中学校で学ばせてほしいと思います。」というご講演をいただきました。

全体授業，シンポジウム

２年東組の国語科「物語を読んでおもしろいと感じたことを友達に伝えよう～『ニャーゴ』～」を全体授業として，体育館で行いました。これまで，子どもたちは自分が選んだ物語のおもしろさをカードに書いて友達に伝えようとしてきました。その際，どのようにおもしろさを見つけて，おもしろい理由を書けばよいか，共通教材である『ニャーゴ』を基にその観点を考えていました。本時は，「おもしろいと感じた理由を書こう」という学習問題を設定し，『ニャーゴ』のおもしろさから，自分たちの選んだ物語でも生かせそうな，おもしろさの観点を見つけていきました。

授業後にはシンポジウムとして，水戸部修治先生と坂井聡先生，岡田涼先生に登壇していただき，本校の研究部長白川章弘教諭と授業者の尼子智悠教諭と共に，全体授業を踏まえながら「学びに熱中する子どもの育成」ついて語り合いました。水戸部先生からは「物語の中で自分が大好きだと感じたところについて交流させることで，どの子どもにも生かせる授業になる。大切なのは，物語を正確に読み取ることではなく，その内容を自分の経験と結び付けて読むことです。」坂井先生からは，教師は「指導はきっちり，評価は寛容に行うことが重要です。支援員の先生は，教師から与えられている課題を子どもたちが自分で遂行できるような支援をし，子どもたちに成功体験を積ませることで，次の課題に対して自分でやってみようという学習意欲が生まれてくるでしょう。」岡田先生からは，「動機付けの理論では，価値と期待のかけ算でやる気・行動が決まると言われています。附坂小で設定している関心と自信は，そこを軸に据えて，計画段階と指導段階で分かりやすく理論が展開されていると感じました。」というご示唆をいただきました。

研究授業

5年　社会科「ワンクリックの先にある社会～販売を変える情報の役割～」　出濱　大資

【丸わかりマップで説明】

本題材では，インターネット販売について調べ，時間的・空間的視野や立場を広げて得た事実を関係づけることで，情報活用の意味を捉え，情報を活用する産業に対する解釈を再構成していきました。

まず始めに，ネット販売で買い物を行い，商品が家庭に届くまでの流れを調べていきました。それらを調べる中で，時間的・空間的視野や立場を広げて，事実を見つめ，高度な情報処理技術により多種多様な商品を扱えるようになったり，効率的に発送準備をしたりしている仕組みを理解していきました。これらの内容を「ネット販売丸わかりマップ」にまとめていくことで，既習事項を使って発表しやすい環境を作りました。そうすることで，「消費者のニーズに応える仕組みが出来上がっているから，ネット販売の売り上げはどんどん伸びているんだね」等と相互に説明を補足し合いながら，情報を活用して仕事の効率化を進めたり，ネットワークによって関係機関がつながったりすることで産業が発展するという情報活用の意味を捉えていきました。

そして，研究会当日は，配送業者が深刻な人手不足に陥っていることについて話し合いながら，ネット販売の利用や再配達の回数が増えたことが原因だと捉えていきました。これらの問題を解決する過程で，ネットワークの発展により増えた注文量に対して，荷物を運んでいる配送員の労働力のバランスが保てていないことに気付いていきます。このような学習を通して，情報を活用する産業において利便性を維持していくには，情報のやりとりで処理される部分と人の手で処理される部分の調和が大切なのだと解釈を再構成していきました。

【ネット販売の問題点について考える】

6年　理科「考えよう電気の有効利用－電気とわたしたちのくらし－」　竹森　大介

本単元では，発電や蓄電，電気の変換について量的・関係的に見て，それらを多面的に調べながら，より妥当な考えをつくり出し，電気の性質や働きを捉える力の育成を目指しました。事前の実態調査から，考察を書くことに対する自信度が低いということが分かりました。その理由は複数の結果から考えをまとめるのが難しいからであることも明らかになっていました。そこで，単元を通して様々な道具を使用して実験しました。複数の方法で実験する場を繰り返し位置づけることで複数の結果から共通点を見る等して，妥当な考えをつくりだすという考察のしかたを身に付けさせることで自信度を高めていきました。

【道具の働きを基に予想する】

研究会当日は「同じ道具でも，種類によって電気の使える時間はちがうのだろうか」という学習課題を追究していきました。豆電球，LED,モーターの三つの道具をそれぞれ３種類ずつ用意し，調べました。まず，それぞれの道具の明るさや動き方を見て使われる時間を予想しました。そして，ペアに分かれて調べる道具を決めて実験を進め，結果をグラフに表しました。その結果を基に，「同じ道具でも種類によって使える時間は違う。どの道具でも同じことが言えた」「速く動く，明るくつく道具の方が速く電気がなくなる」「身の周りの明かりも暗くすると長持ちするだろう」「３段階に分けて明るさが変えられる道具は使い分けするとよい」等と考察を深めました。さらにLEDが消えた後，コンデンサーにモーターをつなぐと動くというふしぎな現象を知った子どもは「なぜそうなるのか調べたい」「コンデンサーのめもりが０になっていないのにLEDが消えたことと関係があるのかな」と追究意欲を高めました。単元を通して，自ら課題を見付け主体的に問題を解決していこうとする姿が見られたと考えています。

【ボードを使って結果･考察を交流】

研究主題　～つながる～ 子どもたちの生活を支えるⅢ

1月26日（金），第62回附属幼稚園研究発表会を開催しました。県内外から約270名の参会者をお迎えし，盛会裏に終えることができました。

公開保育

～長なわとび～
「跳びたい」という気持ちから，回数を増やしたり跳び方を工夫したりして自分なりに挑戦する姿，また，友達の姿を見て自分もやってみようと心を動かす子どもの内面を支える。

1．研究の概要

（1）研究テーマについて

子どもの体験の意味や学びがつながる過程を探ることを通して一人一人の子どもの育ちが充実することを目指した。

（2）研究の目的・内容・方法

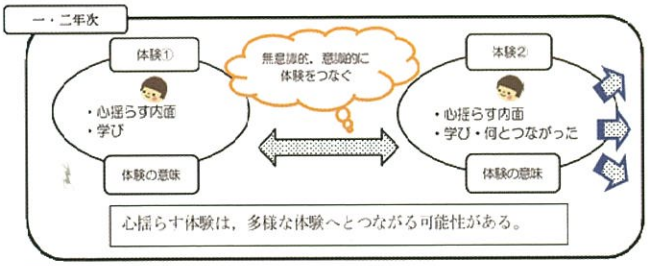
目的）豊かな体験がつながることを通して子どもの育ちの充実を図る

内容）○子どもが一つの体験の中で心揺らしている内面を探る
○体験のつながりに目を向け，その過程における子どもの育ちを見いだす
○子どもの育ちが充実する教師の援助を探る

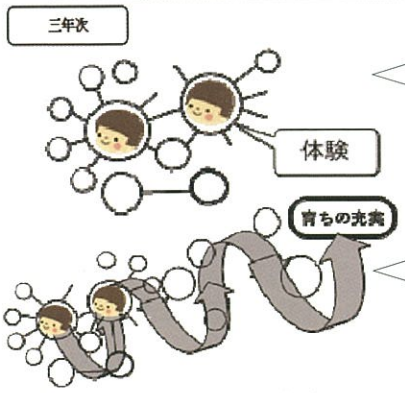
方法）保育記録を基に，子どもや遊びを理解するとともに，事例検討や保育カンファレンスを行うことで，多様な意見を出し合い，考えを深め合い，それらを積み重ねていく。

2．研究の成果（まとめ）

＜子どもの育ちの充実について＞



子どもが一つの体験の中で心を揺らしている内面を探り，それらの体験のつながりや過程から子どもの育ちを見出し，子どもの育ちが充実する教師の援助についても探ってきた。三年間の研究から体験のつながり」と「子どもの育ちの充実」との関係を以下に示す。



「したい」「こうありたい」という思いがあってこそ，体験は多様な体験とつながる。それらがまた次の「～したい」「こうありたい」というと思いを生み，次の体験へとつながる。

「～したい」「こうありたい」という思いをより強くしたり高めたりしながら，自分を向上させよう（新たな自分に出会おう）と内面が変容していく。このような体験のつながりが複雑に絡まり合う。その過程がその人の育ちを充実させている。

＜子どもの育ちの充実を図る教師の援助について＞

教師の援助について見えてきたことは以下の三つの心もちである。

○子どもを見ようとする心もち（子どものささやかな変容も感じ取ろうと，まなざしを向ける）
○子どもをありのまま受け止める心もち（ありのままの子どもの姿を受け止め，そこから価値を見いだす）
○子どもの内面（思い）を考える心もち（子どもの育ちの過程や背景を理解した上で内面に向き合う）

子どもの体験は，子ども自身が自らの力をもってつないでいく。それを前提として，三つの心もちをもって保育を営むことが豊かな保育につながり，子どもの育ちの充実を図ることにもつながっていく。

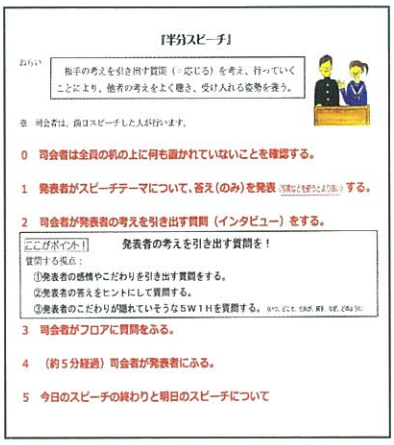
「学ぶこと」と「生きること」をつなぐ「ものがたり」
－ 主体×主体の関係が生み出す深い学びをめざして －

「半分スピーチ」はじめました！

聴き手を育て，素直に語れる空間をつくり出すため，帰りの会では，スピーチの活性化に取り組んでいます。それまで行われてきたペア・スピーチの聴き合い問い合う形式を生かしつつ，今期はより相手に意識を向けて，相手の考えを引き出すような質問が行えるように，「半分スピーチ」というやり方でスピーチを行っています。

具体的には，手順（図１）を基に，司会者がテーマについての発表者（語り手）の考え（すべてではなく一部）を聴き，それに対して司会者やフロア（聴き手）が「応じる」質問を重ねることによって，さらなる発表者の思いやこだわりを引き出していく方法です。

より相手の言葉を聴こうとする姿勢や発表者の答えた言葉を引用した質問を意識して，取り組んでいます。まだまだ課題もありますが，互いが素直に語り合える空間をつくり出せるよう，今後も「半分スピーチ」に取り組んでいきます。


『半分スピーチ』

ねらい　相手の考えを引き出す質問（＝応じる）を考え，行っていくことにより，他者の考えをよく聴き，受け入れる姿勢を養う。

☆　司会者は，前日スピーチした人が行います。

0　司会者は全員の机の上に何も置かれていないことを確認する。

1　発表者がスピーチテーマについて，答え（のみ）を発表（写真などを使うとより良い）する。

2　司会者が発表者の考えを引き出す質問（インタビュー）をする。

ここがポイント1　発表者の考えを引き出す質問を！
質問する視点：
①発表者の感情やこだわりを引き出す質問をする。
②発表者の答えをヒントにして質問する。
③発表者のこだわりが隠れていそうなＳＷＩＨを質問する。（いつ，どこで，何を，誰に，なぜ，どのように）

3　司会者がフロアに質問をふる。

4　（約５分経過）司会者が発表者にふる。

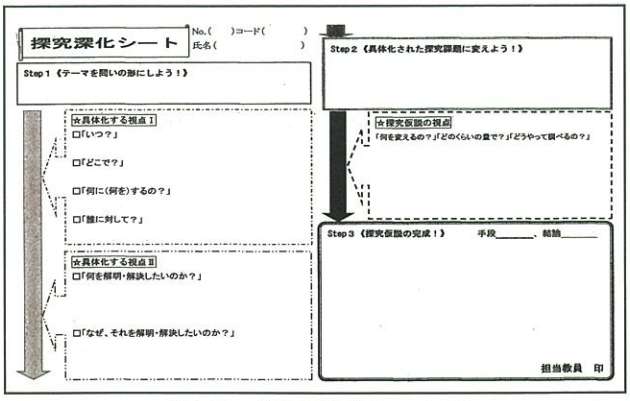
5　今日のスピーチの終わりと明日のスピーチについて

【図１　「半分スピーチ」の手順】

2018 新ＣＡＮスタート！

本校の総合学習CANは，次の言葉の頭文字をとったものです。
C･･･Cluster（クラスター）異学年合同の小集団
A･･･Action Learning（アクション・ラーニング）交流学習法
N･･･Narrative Approach（ナラティヴ・アプローチ）振り返り法
総合的な学習の時間を使って，私たちの身の回りの世界すべてを対象に，興味ある内容を探究し，自らの可能性を拡げていく附属坂出中学校の「本物の学習」です。

CANでは自由に探究課題が設定できる一方で，課題設定に悩むクラスターが多く見られます。そこで今期は，前期の「探究テーマ深化シート」をさらに改良した「探究深化シート」（図２）を活用し，テーマをより具体化することで，探究仮説を設定しやすいようにしました。今後は，教師や３年生，同学年同士によるAL会議を重ねながら，探究仮説の設定に取り組んでいきます。


探究深化シート　No.（　）コード（　）　氏名（　）

Step１《テーマを問いの形にしよう！》

☆具体化する視点Ⅰ
□「いつ？」
□「どこで？」
□「何に（何を）するの？」
□「誰に対して？」

☆具体化する視点Ⅱ
□「何を解明・解決したいのか？」
□「なぜ、それを解明・解決したいのか？」

Step２《具体化された探究課題に変えよう！》

☆探究仮説の視点
「何を変えるの？」「どのくらいの量で？」「どうやって調べるの？」

Step３《探究仮説の完成！》　手段＿＿＿、結論＿＿＿

担当教員　印

【図２　「探究深化シート」】

【「探究深化シート」を活用して
テーマを具体化している様子】

第19回　教育研究発表会　報告

【研究主題】　特別支援教育における協働的な学びを支援する授業づくり

２月３日（土），第19回教育研究発表会を開催しました。全国から教育関係者を中心に250名を超える参加がありました。本校では，知的障害のある児童生徒が仲間との学び合いで理解を深めていくための授業づくりはどうあるべきかという課題意識のもと２年間研究を進めてきました。全体提案では，本校の協働的な学びの捉えや，根拠のある支援の改善を実施するための目標設定や評価方法を提案し，その後，各部の研究授業を公開しました。午後からの分科会では，参観者と共に対話を通して作り上げる研究会をモットーに，各部提案，授業説明の後，「授業者と語る会」を行い，実際に授業で使用した教材教具を紹介しながら，参観者と意見交換をしました。参観者からは「直接，授業者に質問ができてよかった。」「教材が参考になった。」等の感想が聞かれ，有意義な時間となりました。

小学部

単元名「おもてなしをしよう！
～『３くみうどん』へようこそ～」

授業では，お客さんにおもてなしをするために，児童同士で接客や調理の役割分担を行い，丁寧に伝えることや，互いに盛り付けを評価し合うことをめざしました。児童同士でやり取りしながら，お客さんのためにおいしいうどんを作ろうとする姿や，お客さんから「おいしい」「ありがとう」と声を掛けられ，満足そうな表情が多く見られました。

中学部

単元名「『卒業生を送る会』をしよう！
～クラスの出し物を考えよう～」

授業では，卒業生が喜ぶ劇を作るために，劇の背景や場面に合った音楽を考える活動に取り組みました。自分の考えを伝え合い評価し合う仲間との協働的な活動の中で，互いに認め合い，協力して一つの劇を作り上げようとする子どのたちの姿を見ていただきました。仲間と相談して決めた背景を楽しそうに塗ったり，自分たちで選んだ音楽を発表したりしている子どもたちの顔は輝いていました。

高学部

単元名「学校レボリューション
～私たちにおまかせください～」

校内から様々な依頼を受け，仲間と相談しながら計画し，依頼内容を遂行するという活動に取り組みました。これまでの取組の経験を生かしながら必要な道具を考え，仲間と役割分担をして協力しながら依頼に取り組むことができました。依頼者に報告をし，「ありがとう！」と感謝されたときの生徒たちの表情は達成感でいっぱいでした。

講　演

文部科学省より丹野哲也視学官をお招きして「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善～新学習指導要領を踏まえて～」と題してご講演をいただきました。豊富な資料をもとに学習指導要領改訂のポイントを丁寧に解説していただき，知的障害のある児童生徒にとっての主体的・対話的で深い学びを実現するための視点について多くの示唆を与えていただきました。

特別支援教室「すばる」における社会性指導の実践

特別支援教室「すばる」では，“他者の気持ちが分からない”，“場に応じた行動が難しい”，“会話のやりとりがうまくできない”といった社会性やコミュニケーションのつまずきに対する指導も行っています。個別学習において社会性の指導を行う際，場の状況や相手の気持ち，会話の展開など，実際場面では目に見えないものを見えるかたちにすることで，お子さんが具体的に理解できるよう工夫しています。そこで今回は，社会性の指導で活用した教材および指導法を紹介します。

相手の気持ちを察することや，場の状況を正しく理解することが難しい中学１年生のAさんの指導では，ソーシャルスキルトレーニング絵カード（社会的・対人的な問題場面がイラストで描かれている絵カード）を使って，場面の状況理解を促し，適切な対応について考えられるようにしました。絵カードの状況が複雑になると，特定の場面が切り取られて描かれている絵カードでは，前後の文脈まで想像することが難しいようでした。そこで，絵カードの場面を含めたオリジナルの動画を作成しました。動画によって場面の展開が具体的に分かるようになり，当該場面の前後の状況や登場人物の気持ちを含めた，より正確な状況の理解につながりました。

状況や相手に合わせて会話をすることが苦手な小学４年生のBさんの指導では，会話に必要なスキルを具体的に指導し，指導者との実践練習を繰り返しました。まずBさんに必要な会話のポイントとして，「①笑顔でニコニコ話を聞く」「②相づちをうって話を聞く」「③言い方と話す量に気をつける」を挙げ，これらを絵や文字で示して意識できるようにしました。また，会話の様子を動画で撮影することで，自分の表情ややりとりのスムーズさ等を客観的に見て振り返ることができました。さらに，会話のやりとりを文字化して見えるかたちにしました（図１）。こうすることで，発話量や内容のつながり，相づちや適切な応答の有無を具体的に理解することができ，自分の改善点を意識しながら実践練習を積み上げることができました。

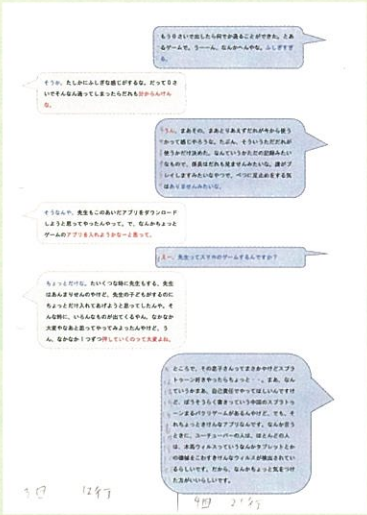


図１：会話の視覚化

周囲からどう見られているかという意識が薄く，マイペースで行動する小学６年生のCさんの指導では，他者からの視点に意識が向けられるよう指導を行いました。具体的には，トラブルになっている二人とその周囲の人を描いたイラストを示すことで，周囲の人がそれを見てどう思うのかを想像できるようにしました（図２，３）。そして，Cさんが吹き出しに周囲の人の考えや気持ちを書いた後，充分に気づけていない視点を指導者が書き加えました。周囲の存在を視覚化し，他者の視点に立って気持ちを想像する学習を重ねることで，少しずつ自分の言動に対する他者の評価について意識を向けられるようになりました。

図２：先生が見た場合

図３：低学年の人が見た場合

松韻会だより

幼稚園より

大掃除

１月26日の研究発表大会に向けて，園内大掃除を行いました。午前中の短い時間でしたが，全園児と保護者と先生方で一生懸命に頑張りました。子どもたちがいつもお世話になっている園舎と園庭がとてもきれいになりました。

おでんパーティー

１月19日，お誕生日会で青組主催のおでんパーティーを開きました。青組さんが自分たちで育てた大根を料理しました。黄組さんや赤組さんが食べやすいように一口サイズに切るなどの工夫をしました。何度もおかわりするほどおいしくでき，大好評でした。

助産師出前授業

１月29日青組さんとその保護者を対象に助産師さん２名による授業が開かれました。体のつくりや陣痛から出産まで，自分たちが産まれてくる仕組みを細かく学びました。授業を通して性に対する正しい知識や命の大切さを学び，自分が産まれてきたときの様子などにも興味をもつことができました。

小学校より

坂出市PTAソフトボール大会

12月10日（日），坂出市PTAソフトボール大会が林田町総社グラウンドにて開催されました。

小学校からは２チーム出場し，結果はみごと優勝！　参加保護者同士で和気あいあいと楽しい時間を過ごし，結果も最高の一日となりました。ちなみに，中学校チームも優勝し，幼稚園チームも準優勝と三校園とも素晴らしい結果を残すことができました。

ただ，大変寒い日でもあり，けがをされた方もいらっしゃいました。来年はしっかりと準備体操を含めケアして臨もうと反省しております。

OYGバスケットボール教室開催

２月10日（土）にOYGの有志が企画し，バスケットボール教室を開催しました。バスケットボールスクールハーツ坂出の方をお呼びし，簡単な練習メニューからミニゲームまでを小学校体育館で行いました。

雨の降る非常に寒い中でしたが，けがもなく，児童とお父さんお母さんたち，また講師の方も楽しく過ごしました。

バスケットボールスクールハーツ坂出は，附属坂出小学校体育館で毎週火曜日に教室を開催しております。

中学校より

松韻会カフェ

12月２日（土）オープンスクールの日に多目的室において「松韻会カフェ」を開きました。

コーヒー・紅茶・ジュースを100円で提供させていただきました。また総合学習CANで生徒が開発したどらやきや附属グッズの販売も行いました。多くの方に足を運んでいただき，学校での様子をビデオ鑑賞しながら，ゆっくりとした時間を過ごしていただきました。

保護者による進路指導

自分の将来について考えるきっかけに…と一昨年から始めた「保護者による進路指導」を，今年もオープンスクール時に行いました。医師・薬剤師・保健師・図書館司書・警察官・銀行員・通信・機械メーカーから８名の保護者の方々に講師をお願いし，１・２年の生徒にお話をしていただきました。

様々な職業の話を聞くことができ，進路について考える貴重な機会となりました。

今後もキャリア教育の一環として継続していきたいと思いますので，保護者の皆様ご協力お願いいたします。

特別支援学校より

第19回研究発表会に向けたクリーン活動

親和会

本校で２年に１度開催される研究発表会で，たくさんのお客様や関係の方々をお迎えするにあたり，１月24日（水）の10：00～保護者によるクリーン活動を行いました。

雪がちらつく寒い中，たくさんの保護者の方が参加してくださり，小学部はプレイルームや教室の窓，やまもも棟のトイレなど，中学部は，玄関の窓や玄関ホールの床拭きなど，高等部はやまもも棟までの通路のくもの巣取りや家庭科室の窓など，普段なかなかできないところや，気になるところを協力し合って清掃してくださり，大変助かりました。

おかげさまで，気持ちよくお客様をお迎えすることができました。

ご協力いただいた皆様，本当にありがとうございました。

坂出学園１月～３月のあゆみ

ホームページをリニューアルしました

昨年の12月より，教育活動の情報発信をさらに強化するために，ホームページをリニューアルしました。生徒たちの活動の様子や教育研究の実践などについて，随時更新して多くの方々に中学校の様子をご理解いただけるように運営しております。ぜひ，アクセスしてみてください。(http://www.sch.ed.kagawa-u.ac.jp/)

３年生激励会

１月９日(火)，３年生激励会が行われました。受験を迎える３年生の合格を祈願し，１・２年生一人一人の応援メッセージを記した合格ふくろうとシクラメンを３年生に贈りました。メッセージには「最後まであきらめないで，夢の実現に向けて頑張ってください。私たちも全力で応援しています。」等，先輩方が無事突破できるようにとの願いが込められていました。この合格ふくろうは１・２年生全員が寄せ書きをして作ったもので，これまでお世話になったことへの感謝の気持ちがつまっています。

冷え込みが厳しい体育館で行われましたが，今年も附坂中生の強い絆が感じられる心温まる会となりました。

中学校

坂高連携について

本年度から新しく始まった，坂出高校教育創造コース。将来教師を目指す高校生が，１年を通して７回，小学校の子どもたちの学ぶ姿を参観したり，授業支援を体験したりしました。６月には技能教科中心の支援体験。９月には昼休みの活動として，安全スライム作りなどの体験活動や読み聞かせなどを行い，たくさんの子どもたちが楽しい時間を過ごすことができました。２月６日は，最後の支援活動として，１・２・３年生の丸付けの手伝いをしたり，難しい問題にアドバイスをしたりしました。問題を解くとすぐに丸付けをして，間違っていればアドバイスしてくれるので，いつもより意欲的に問題に取り組む子どもたちの姿が見られました。自分のお兄さん，お姉さんのように頼ってくる子どもたちを身近に感じて，教師への夢を膨らませた高校生もたくさんいたようです。子どもたちもうれしい！高校生も学べる！そんなすてきな取り組みとなりました。

＜添削活動＞

＜リコーダー支援＞

小学校

特別支援学校

青年教室について

青年教室とは本校OBによる卒業生・保護者の会のことです。日帰り旅行やキャンプ，カラオケ，ボウリングなど年間を通して様々な活動を行っています。皆さん自分の予定を見ながら，無理のない範囲で参加しています。それぞれ楽しみにしている活動もあり，そのときは本当に楽しそうです。

青年教室は，会員同士の交流や情報交換の場となり，本校職員にとっても，卒業生の現在を知り，その姿から在学中の指導を考えることができる大変有意義な機会になっています。

日帰り旅行

母校でキャンプ

カラオケ

一泊旅行(今年度は足摺方面)

幼稚園

修了と進級に向けて　大きくなる喜びいっぱいの子どもたち

２月中旬，５歳児青組が３日間小学校体験をしました。教室で席に着くと，もうすぐ小学生になるわくわく感が沸いてきたようでした。１年生や２年生，５年生とふれあい，副校長先生をはじめとした先生方との出会いの中，「早く１年生になりたい」「しかし，修了の日までは精一杯幼稚園で挑戦したい」と意欲と学びの源を広げた青組でした。

青組がいなかった３日間，幼稚園の最年長としてはりきった赤組。先生から青い名札をプレゼントしてもらい，気持ちはすっかり年長児でした。青組専用の少し難しいビー玉コースに真剣に向き合ったり，青組でお弁当を食べようと自分たちで準備をしたりする姿が頼もしかったです。

年少児は「○○ちゃん，一緒に遊ぼう」と友達と楽しいやりとりをしている姿，青組や赤組の様子を見て自分もやってみる姿など，友達と一緒に生活する心地よさ，うれしさを体にため込んでいます。「もうすぐ赤組さんになる」「ぼく，大きくなったよ」こんな言葉がよく聞かれます。

自分でできることが増え，誇らしい気持ちを伝えたいのでしょう。

編集後記

今年の冬は，珍しく雪が何度も降り積もりました。雪だるまを作って楽しんだ子どもも多くいたことでしょう。平昌では冬季オリンピックが開催されました。北朝鮮を核として政治的に利用されているという批判を受けながらも，選手たちは４年間の集大成として，すばらしいパフォーマンスを見せてくれました。

坂出学園でも，存続問題を含め，先行きの明るい話題ばかりではありません。しかし，幼稚園・小学校・特別支援学校の研究会では，例年まれにみる大寒波の中，子どもたちや先生方の熱い授業が展開されました。我々が思い切って授業に取り組めるのも，保護者をはじめ関係の方々の温かいご支援のおかげです。今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

発行年月日：2018年３月19日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

桑原　育子　(附属幼稚園)

樽本　導和　渡部　岳史（附属坂出小学校）

小林　理昭　大西　光宏（附属坂出中学校）

合田　卓生　妹尾　恭子（附属特別支援学校）